

世界に轟け、伝統の響き

和太鼓 × 浅野 恭央 [石川県白山市]

加賀藩前田家の招きで、革細工の名人と呼ばれた播磨屋左衛門五郎・治郎が金沢・浅野村に移り住み、皮革製造業を始めたことが浅野太鼓の始まりとされます。原材料や水などの自然の恵みに加え、文化・芸能の発展があいまって太鼓作りが盛んになっていきました。さらに周辺地域に金箔、漆器、銅器等の技術が集積したことで、音色だけでなく意匠の面でも優れた製品が作られるようになります。和太鼓がこれからも発展していくためには、伝統の技術を継承するだけにとどまらず、時代に応じた新しい製品に取り組み、世界に発信することが強く求められます。浅野氏は、原木加工から革の処理、仕上げまでを一貫して行う匠の技を駆使し、寺社や祭礼はもとより国内外の演奏家に向けた和太鼓作りに挑戦し続けています。



●轟太鼓(だだいこ)

雅楽に用いられる最大の楽太鼓。宝珠形の五色の雲形板と朱色の火焰(かえん)で囲まれており火焰太鼓とも呼ばれる。金箔、漆等の伝統技術による意匠も美しい。



●英哲(えいてつ)型 桶胴太鼓

日本のトップ和太鼓奏者である林英哲氏が考案、舞台演奏用に改良された。ロープと胴の配色の組み合わせで舞台を彩る。

【株式会社浅野太鼓楽器店】

石川県白山市福留町587-1

TEL. (076) 277-1717

<https://www.asano.jp/>

Instagramは
こちらから



●長胴太鼓と大太鼓

その大きさに圧倒される。また耳だけでなく腹の底に響く音は心も揺さぶる。



●附締(つけしめ)太鼓

高く強く鋭い音が演奏に変化を与える。リズムを保つ重要な役割を担っている。



千差万別の樹木の個性を生かしつつ、最高の音が出るように職人は力を尽くす。

浅野 恭央 (浅野太鼓楽器店 十八代当主)

石川県生まれ。大学卒業後、1991年に株式会社浅野太鼓楽器店に入社。

2000年に社長に就任。一般社団法人日本伝統職人技術文化研究会会員。

〈主な受賞歴〉

2004年 「地域活性化貢献企業特別賞」受賞

2007年 「明日の日本を支える元気なモノ作り中小企業300社」受賞

2009年 アメリカNAMM SHOW「400年企業」受賞 グッドデザイン賞3回受賞

〈主な納品先〉

明治神宮(5尺大太鼓)、大園魂神宮(3尺8寸大太鼓)、飛騨高山まつりの森(6尺9寸大太鼓)、箱根大天狗山神社(5尺大太鼓)、霧島神宮(3尺太鼓)のほか、全国の寺社、だんじり祭等の祭礼、和太鼓奏者グループなど